



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

NOVEMBER 2019
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 53 no. 6

Published by JAIP 1-1-13-4F, Kanda-Jimbocho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0051

e-mail:office@jaip.jp

Frankfurt Book Fair 2019に参加して

フランクフルト・ブックフェアへの参加は4年ぶりとなりました。久しぶりなのでそれなりの意気込みで臨むつもりでしたが、ご存じのように台風19号が関東を直撃した為、予定していた飛行機便がキャンセルとなってしまいました。一時は途方に暮れましたが、旅行代理店のおかげで何とかフェア開催前日の夕方に現地入りすることが出来ました。出発が遅れたおかげで、ラグビー日本代表がワールドカップの決勝トーナメント進出を決めた試合を見ることが出来たのはラッキーでした。

今年は104の国から出展社7,450社、総入場者数は302,267人でした。土・日の一般の方の数字も入っていますが、昨年と比べると出展社は50社ほど減りましたが、入場者数は17,000人ほど増えたこととなります。弊社は今年も社長と2人での参加でしたが、例年通り出版社との事前アポイントメントが（ダブルブッキング分を含め）4日間で70近くもあり、次のミーティングに間に合わせるために、移動時間も含めて約30分以内でこなさなければならず、少しでも議論が白熱すると結構焦りました。その場合はどちらか1人が残り、もう一方が先に次の出版社を訪ねてなんとか凌ぎました。少しでも空いた時間があれば会場内を歩き、気になっていた出版社をアポ

なしで訪問したり、先のミーティングでどうしても終了しなかった出版社を再訪問したりと、時間を余すところなく有効に使うことが出来たと思います。会場を歩き回っている時に出版社の方から本を見て欲しいと逆に声をかけられ、そのままミーティングに入ったこともありました。その方は以前、建築関係の出版をしていて取引があったのですが、今は画家のファクシミリ版を出版しており、日本での販路を探していたようです。ところが知り合いもない為、たまたま通りかかった私に思い切って声をかけてみたと言っていました。

このような出会いは嬉しいもので、現在は付き合いがなくても昔から知っている方と挨拶をしてお互いの名刺を交換し、近況報告が出来れば、これからの私の仕事にもきっと役立ってくれることと思います。

ちなみに弊社の一日の予定ですが、朝6時には起床し、6時半から社長と朝食をとりながらその日のアポの最終的な打ち合わせをします。7時半にはホテルを出て会場に向かい、8時過ぎには会場入りをするようにしていました。9時近くになると出展社の方々が次々と来るのでその混雑を避ける為です。最初のアポの時間まで、決まった場所でコーヒーを



①View of Frankfurt (Main River)



②MHM dinner with the University of Chicago Press and affiliates

飲んだら、いよいよ出陣です。あとはひたすらミーティングをこなし、18時頃によく長い一日が終わるはずなのですが、そこからさらに出版社のパーティー等々に参加したり、或いはこちらが出版社を接待することもあります。毎年、水曜日の夜には決まった出版社と関係者の方々を日本料理店に招待します。写真②はそのときのものです。

その中のひとりが「年に3回とても楽しみにしている食事会がある。それはクリスマス、サンクスギビングデーとフランクフルトでのこの食事会です」と満面の笑顔で言われた時は、インターネットなど情報伝達手段の飛躍的に発達した現代ですが、やはりこのように年に一度は会い、食事をしながら仕事を含めたいろいろな事を語り合うのも必要だと、改めて感じました。

洋書業界に入った30年以上前に、当時の上司から、我々は文化の担い手であると肝に銘じ仕事に取り組むように、と言われたことがありました。この極東の島国に、海外の優れた出版物を輸入、紹介して、その本を読んだ人達が感銘を受け、その道に進む、或いは世界的に有名な学者、建築家、アーティストになれば、ブックマンとして何にも代えられない幸福を手に入れることが出来ます。そのような人達が今より少しでも多く輩出されるよう、我々洋書に携わる者としては、真摯に洋書と向き合う事が肝心だと思い、日々苦勞しながらでも自身で精進し続けていくのが、この業界に入った者としては必要なことだと思っています。

(株式会社MHM 高橋 浩幸)

海外ニュース

ブロンテ博物館 シャーロット・ブロンテの稀観本購入のため資金調達に乗り出す

シャーロットが14歳の1830年、その手書きの本は作られ、一家の死後は長らく個人の所有となっていた。2011年のサザビーズのオークションに出されて注目を集めたが、ブロンテ博物館はある投資集団に競り負けて、落札することができなかった。

ブロンテ姉妹が子供のころに作成した手書きの本、The Young Men's Magazineは、全6冊のいわば豆本で、うち5冊の現存が確認されている。今回オークションに出品されるのはその5冊目で、最低でも65万ポンド（現在の換算で約9100万円）はするとみられている。ほかの4冊を所蔵しているブロンテ博物館としては、それを入手することで世界的

に重要なコレクションを完成させたい、と考えている。博物館側は、「これは学術的にも極めて重要な資料で、ブロンテ姉妹の作家としての成長過程がわかり、『ジェーン・エア』などののちの作品につながるテーマの萌芽が明らかになるだろう」と期待している。

ブロンテ博物館は、このオークションのために何か月も資金調達に奔走してきている。

(The Bookseller Online, October 24, 2019より適宜抄訳)

情報提供：MHM 遠藤尚子

・セミナーのお知らせ・

このたび『オープンアクセス書籍』をテーマとしたセミナーを、下記の通り開催することとなりましたのでご案内致します。一般の方もご参加いただけます。

日 時：2019年12月18日（水）午後3時～5時

テーマ：オープンアクセス書籍の動向とOAの現状

講 師：天野 絵里子（京都大学 学術研究支援室）

会 場：出版クラブホール4F 東京都千代田区神田神保町1-32

会 費：JAIP 会員および書協会員：無料、一般：1,000円

申 込：12月12日（木）迄に事務局まで office@jaip.jp

第4回 美術鑑賞会レポート

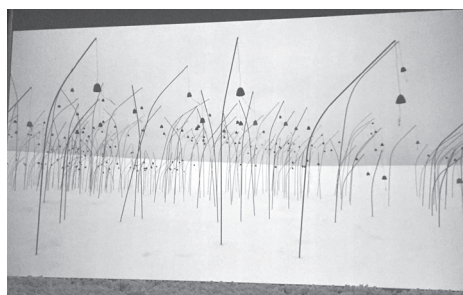
みなさま初めまして。ユサコ株式会社の旭です。日本洋書協会のイベントでは主にボウリング大会に参加しており、2013年2月に開催された第19回大会から定期的に参加しているにもかかわらず未だ優勝できないため、会報等で皆様にご挨拶させて頂くのは初めてです。優勝コメントを先にかいたのですが、今回は2019年8月2日(金)に開催された美術鑑賞会について僣越ながらレポートさせていただきます。

私自身、芸術や美術に疎く、美術鑑賞会も今回が初参加でした。今回訪れた国立新美術館は会社から徒歩でも行ける範囲にあるにもかかわらず初めての訪問で、素晴らしい美術館が近くにあるのにこれまで距離をおいてしまったことを、鑑賞会終了後に後悔することになりました。

美術鑑賞会の前にまず感じたのは国立新美術館の建物の美しさで、ガラス張りの建物が映る館内のデザインやライティングがとても印象的で、日常の喧騒を忘れさせる雰囲気もよく、ただ館内を歩き回るだけでも美術館は楽しめるものなのかと気づかされました。

肝心の美術鑑賞会ですが、今回は『クリスチャン・ボルタンスキー Lifetime』です。50年にわたるボルタンスキーの様々な試みを振り返る内容で短編フィルムや写真、さまざまな光源を用いた作品などで歴史や記憶、人間の存在の痕跡といったものがテーマになっていました。会場の雰囲気も作品の内容もモノクロ写真や祭壇をイメージした暗い内容のものが多く、作者の背景を知らなかった私はその表面的な不気味さしか感じ取れませんでした。しかし、作品の背景には彼の父親がユダヤ人であったこと、父親やその周辺から彼に伝えられたホロコーストの不安と恐怖の記憶があることを知ったとき、感じた不気味さが現実的な怖さになり、作品で伝えなかったことや重さを少しばかり理解できた気がします。

参加する前に調べていた「美術館の楽しみ方」では、美術館ではその作品をただ観るのではなく、選り好まないことが大切だと書かれていました。これまでの美術に対する距離の置き方はただ観る、という視点になっていました。美術に限らずこれまで身回りにあるものに対してついつい選り好みをしてしまい、いろんなものやことに対して興味をもって触れることが出来ていなかったのではないかと今回参加して感じました。ボルタンスキーの会場を後にしながら、これまでの自分

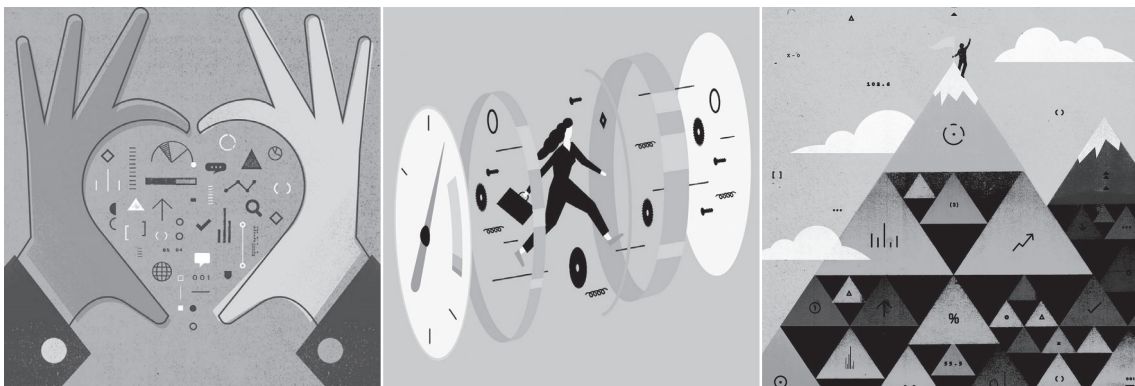


の考え方・ものの見方が少し変わった気がします。

美術鑑賞会の後は洋書協会文化厚生委員会の裏テーマ(?)である「老舗の居酒屋、東京の居酒屋文化に触れる」を体験しました。今回訪問したのは六本木にある「松ちゃん」です。六本木の路地裏奥の閑静な住宅地にあるお店で、佇まいは古民家か古い料亭かといった雰囲気。入るのに躊躇しますが、一歩店に入ると六本木の喧騒に逆戻りします。酒の席では主に映画の話になり様々な映画のタイトルが飛び交いましたが、なかでも「ポリスアカデミー」のおもしろさをMHMの遠藤さんが熱く力説されていたことが印象に残り、いろんなことに興味をもって触れる活動の一環としてポリスアカデミー・シリーズをコツコツ観ていこうと思いました。

これからも美術鑑賞会は継続して開催されると思います。その際はぜひ普段美術館などにあまり行かない方にご参加いただけると、新しい何かを見つけることができるかもしれません。

(ユサコ株式会社 旭 晃)



The New England Journal of Medicine を発行する
NEJM Group が発行する新雑誌

2020年1月
創刊!

NEJM Catalyst Innovations in Care Delivery

医療を変革するためのアイデアが満載

医療の変革、医療の価値の向上をテーマに、実践的な問題解決策や、ヘルスケア業界における世界中のイノベーション事例が紹介され、臨床医や病院経営層、学术界の知見が集結します。

ケーススタディや研究報告、インタビューなども掲載され、各領域の専門家の視点や、実用的な知識を得ることができます。

扱われるトピック

- Alternative payment models
- Analytics and outcomes
- Culture of health
- Health care leadership
- Health technology
- Market landscape
- New models of care
- Patient-centered care

Editorial Leadership



Thomas H. Lee, MD, MSc,
Editor-in-Chief, Editorial Board
Co-Chair; Chief Medical Officer,
Press Ganey Associates;
Editorial Board, *The New
England Journal of Medicine*



Michael E. Porter, PhD, Editorial
Board Co-Chair; Bishop William
Lawrence University Professor,
Harvard Business School



日本総代理店 南江堂 洋書部

〒113-8410 東京都文京区本郷3-42-6

Tel: 03-3811-9950 Fax: 03-3811-5031

nkdyosho@nankodo.co.jp <http://foreign.nankodo.co.jp>

NEJM
Catalyst

日本洋書協会会報 vol.53 No.6(通算561号) 発行日2019年11月1日 編集者 遠藤 尚子

発行所 日本洋書協会 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1-13 (株)MHM内 TEL 03-3518-9631 FAX 03-3518-9523
URL:<http://www.jaip.jp> E-mail:office@jaip.jp